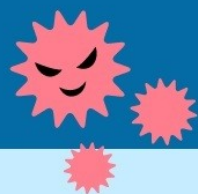


RS ウイルス感染症



RSウイルス感染症 どんな病気？

- 2歳までにほぼ全員が感染
- ほとんどは軽症で済む
- 発熱や鼻水などの症状
- 生後6カ月以下・心疾患がある場合は重症化リスク
- 乳幼児の肺炎の約50%はRSウイルスが原因



RS ウイルス感染症 検査方法



RS ウイルス感染症 感染経路 潜伏期間

- 飛沫感染と接触感染に注意します。感染している人のくしゃみやせきで出る飛沫を吸い込むことにより感染します。
- くしゃみやせきを浴びる距離（2メートル程度）にいる人は感染の危険性が高まります。また、感染している人の唾（つば）や鼻水が手から手へ、あるいはドアノブやつり革などを介して手に付着し、口や鼻、目などの粘膜に触れることでも感染します。
- こまめな手洗い、手指消毒用アルコールで接触感染のリスクを減らすことができます。
- なお、RS ウイルスは感染力が強く、保育園、幼稚園、病院の外来や病棟、高齢者施設での流行がみられ、注意が必要となります。
- 潜伏期間： 通常 RS ウイルスに感染してから 2 ～ 8 日、典型的には 4 ～ 6 日間の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。

RS ウイルス感染症 症状

- 鼻水、発熱、せきなど一般的なかぜの症状からはじまりますが、RS ウイルスが下気道に入り込むと、細気管支炎、肺炎にいたることもあります。
- 喘息のようなゼイゼイとしたせきが特徴ですが、初めて感染した乳幼児は重症化しやすく、症状によっては入院が必要なこともあります。呼吸が苦しそう、陥没呼吸（息をするときに、胸やおなかへこむ）がみられる、顔色が悪い、母乳やミルクの飲みが悪いなどがみられるときは早めに医療機関を受診しましょう。
- また、6か月未満の赤ちゃんや早産児、生まれつき肺や心臓に疾患を持っている場合に重症化することがあります。RS ウイルスに感染し、入院を必要とする場合のほとんどは、初めて感染する6か月未満の乳児といわれています。

RS ウイルス感染症 治療

- RS ウイルス感染症に対する効果的な薬はありません。したがって、症状を和らげる対症療法が治療の基本となります。
- 具体的には、栄養や水分を補充するために点滴や胃チューブを用いた経管栄養、痰を除去するために去痰剤の投与などが行われます。
- また、呼吸困難によってチアノーゼを起こしている場合には酸素投与、呼吸不全に陥っている重症例では人工呼吸器による治療が行われますが、このような場合でも通常は時間の経過とともに症状が軽快し、最終的には回復します。

RS ウイルス感染症 予防

- RS ウイルスの感染を防ぐためには、マスクの着用や手洗い、子どもが日常的に触れる物品のこまめな消毒、人混みを避けるなどの基本的な感染予防対策が重要となります。
- RS ウイルス感染症に対するワクチンはありませんが、早産児や、2歳以下の慢性肺疾患・先天性心疾患・ダウン症候群・免疫不全の子どもは、予防薬であるパリビズマブという注射薬を用いることができます。